慶應義塾 医学部新聞
発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160－8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線(64996)
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　比企　能樹
毎月　1回20日発行

慶應義塾大学病院
信濃町駅前・各種診療
●診療時間＝午前9時～午前11時
●電話＝(3353)1211（大代表）

第90回 慶應医学会総会開催

8名が三四会奨励賞を受賞

平成22年11月12日、慶應義塾大学病院新棟11階大会議室において第90回慶應医学会総会が開催された。

総会開始時に今年度中の物故者へ黙祷がささげられた。

松会長が提示した予算、事業計画（案）が承認された。

その後三四会奨励賞授与式が行われ、比企能樹三四会長より8名の受賞者に表彰状と副賞が授与された。

本年度は臨床医学分野から3名、基礎医学分野から4名、地域医療・社会貢献分野から1名の三四会員が受賞した。昨年度は該当者がいなかった地域医療・社会貢献の分野からも受賞者があったことに加え、基礎研究に力をそそいでいる現在、基礎医学分野から最多の4名の受賞があったことは、今後の三四会の発展を大いに期待させるものである。

医学会総会に併せて開催されたシンポジウムの模様は次号（12月号）で掲載予定。受賞者からのコメントは3面にて掲載する。

臨床医学分野

1．石井　誠（内科学）

Epigenetic regulation of the alternatively activated macrophage phenotype
（M2マクロファージのエピジェネティック制御機構）

2．荒木　幸仁（耳鼻咽喉科学）

頭頸部難治性疾患に対する molecular therapy
（頭頸部難治性疾患に対する分子標的治療）

3．斎藤　義正（内科学）

Chromatin remodeling at Alu repeats by epigenetic treatment activates silenced micro *RNA-512-3p* with downregulation of *Mcl-1* in human gastric cancer cells
（胃がん細胞においてエピジェネティック治療によるAlu反列のクロマチン構造変化がmicroRNA-512-3pを活性化しMcl-1を抑制する）

基礎医学分野

1．中原　仁（解剖学）

多発性硬化症における髄鞘再生不良因子の同定

2．金田　るり（再生医学）

エピジェネティック解析技術を用いた心不全の病態解明

3．辻　収彦（整形外科学）

Therapeutic potential of appropriately evaluated safe-induced pluripotent stem cells for spinal cord injury
（安全性を厳密に評価したiPS細胞の脊髄損傷への有効性）

4．森川　暁（歯科・口腔外科学）

Prospective identification, isolation, and systemic transplantation of multipotent mesenchymal stem cells in murine bone marrow
（マウス骨髄多能性間葉系幹細胞の予期的同定・分離と全身移植）

地域医療、社会貢献または三四会活動等

1．近藤　太郎（内科学）

医師会活動および三四会活動

創立150年記念事業報告

新病院棟建設について

慶應義塾大学医学部三四会長　比企　能樹

去る10月19日、三田キャンパスにおいて創立150年記念事業委員会と募金推進委員会が開催され、記念事業委員長の清越孝雄氏が経緯の報告と謝辞を述べられ、続いて募金推進委員長・福澤武評議員から、本年9月を以って募金推進委員会の終了宣言がなされました。「三田評論」10月号に掲載されましたので、既にお目通しの事と思います。

その節の報告・説明によると、2005年10月より開始されて募金活動は順調に進み、2008年8月末には目標額の250億円に達するお申し込みがあり、その後は従来の記念募金と共に、新病院棟建設資金の使途指定寄付に変更して無償で、信濃町の病院棟建設に関しても、この浄財を活用して無駄なく、全体の事業計画の見直しが図られます。信濃町地区の新病院棟建設が成就されればなりません。新病院棟建設に関し、現場では武田病院長を旗頭に、病院長補佐として病院建設の経験を活かされた塚秀人君が、そして準備室長として新病院建設企画担当教授・渡辺真純君が就任し、総力を集め臨床および基礎研究の一体化を目指す最新の病院建設に協力を願い申し上げます。

募金協力者一覧は3面に掲載

この計画が積極的に推進されるべく戸山常任理事、深く感謝申し上げます。使途指定以外の寄付金も含め、皆様からのご寄付の一部を、「三田キャンパス南校舎」の建て替え「新しい小学校の開設」等、現在着手しております事業、なお、大切に保全し、新病院棟建設に配分させていただきます。三四会員の皆様には、信濃町キャンパスにおける創立150年記念事業の完遂、すなわち新病院棟建設を基盤とした高度な良質な医療の発展に資する新しい医療施設の構築を図っていきたいものです。

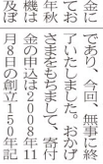
さて信濃町キャンパスの事業としては、未来を先導する新しい医学・医療体制の創造、およびその発展に資する新しい医療施設の構築を図っていきたいものです。2008年1月に「臨床研究棟」が竣工し、また別館跡地には、「3号館（北棟）」が2011年1月に竣工され、その後「3号館（南棟）」が着工されます。

新病院棟建設については、使途指定寄付「信濃町新病院棟建設資金」を導入しました。そのお申込金のうち、入金額は11・8億円に達しました。募金全額を推進中で、すでに三四会員の方々に、ご報告致します。詳細は医学部新聞10月号をご覧下さい。

さて、医学部は2017年に創立100年を迎えます。この時までには、何とかして信濃町新病院棟建設が成就されればなりません。新病院棟建設に関し、現場では武田病院長を旗頭に、病院長補佐として病院建設の経験を活かされた塚秀人君が、そして準備室長として新病院建設企画担当教授・渡辺真純君が就任し、総力を集め臨床および基礎研究の一体化を目指す最新の病院建設に協力を願い申し上げます。

事業の完遂に向けて

慶應義塾大学　常任理事（創立150年記念事業担当）　渡部　直樹



創立150年記念事業は、総額900億円規模で、2005年9月より計画策定を開始し、引き続き実施がなされており事業は、実施時期を繰り延べしても完遂を目指します。募金目標額を255億円と定め、残りの資金は、義塾の通常の経常費、ならびに自己資金運用による調達と借入金によって賄うこととしておりました。2008年秋以降の世界的金融危機は義塾財政にも影響を及ぼすこととなりました。おかげさまをもちまして、寄付金の目標は2008年11月日の創立150年記念日に目標額を達成し、最終的には2億円に達しております。また、いただいた寄付金の一部は、すでに「未来先導基金」への組入れや「日吉キャンパス南校舎（慶應義塾の建設）」に充当されるべく戸山常任理事、そして末松学部長が、そして準備室長として新病院建設企画担当教授・渡辺真純君が就任し、総力を集め臨床および基礎研究の一体化を目指す最新の病院建設に協力を願い申し上げます。

今後、更に三四会員の皆様には、その建設が信濃町に現れるまで一層のご協力を願りたく、ここに謹願い申し上げます。

皆様方の温かいご支援を願いたく、ご報告とお願いの稿をお借りして、深く御礼申し上げます。

全体的には例年どおりであるが、3月前から本大会に公式に参加している三四会としては、エポックメーキングな年となった。今回のスローガンとロゴマークは別図のとおり、福澤先生の生誕175周年を記念し、三色旗と威臨丸を組み合わせたもので、「あまたな危機に直面し、大きな改革の時期を迎えている現在、私たち塾員の使命は150年前の威臨丸のように、荒波に立ち向かい、困難を乗り越え、未来への道標を築くこと」という幹事諸君の意気込みを示している。

去る10月24日日、曇、2万人を超える参加者（大会本部発表、日吉記念館前の賑わい、塾HP より）を集めて、例年どおり日吉キャンパスで開催された「慶應義塾大学医学部三四会総会」が、渡辺理事が河村理事の協力を得て、作ったばかりの三四会ホームページ（http://www.sanshikai.keio.jp/）で案内されたとおりの、福澤先生を頂き、「慶應義塾」の文字を刻まれた、ピンマーク、ホワイトボード、パワーポイントなど新鮮な雰囲気の下で講演（「慶応義塾」）が行われた。

講演会場である第4校舎の独立館B203教室への移送先は、横に厳重な封印がされたB203教室の入口に貼られた「IPS細胞を用いた治療の先駆けに」の表示を中心として、450名収容の大教室の設営が事前に行われて講演に備えた。

記念式典後、比企会長が集まった三四会執行部幹事の先導で講演者の中里一郎先輩（S35年工学）が、「戸山常任理事、ピンポン、ホワイトボード、パワーポイントなど新鮮な雰囲気の下で講演（「慶応義塾」）が行われた。

北里柴三郎」が行われた。

三四会会長の挨拶に続き、「慶應医学」の表題で、「三田会長挨拶」、「慶應医学」の表題で、「三田会長挨拶」、「慶應医学」の表題で、「三田会長挨拶」